

10月 絵本であそぼ!

■0歳児

◇絵本『ばいばいまたね』

～はじめて言えたバイバイは、他者との関わり合いの第一歩～



今月は『ばいばいまたね』を読んできました。主人公のゆうちゃんが、ボールさんにも、かめさんにも、祐ちゃんの大好きなあいちゃんに、先生に「ばいばい」と、たくさん「バイバイ」が出てきます。ページをめくるたびに、おしゃべりが上手になってきた子は「ばいばい」と言いながら、まだ、おしゃべりが上手でなくても、手をひらひらさせて「バイバイ」を表現して見えています。

一日の終わりにみんなに「バイバイ」と挨拶してまわってる姿。保育園で楽しく一日を過ごした後なんだろうなと思える絵本です。

子ども達は、朝からお母さんに「行ってきます」とバイバイしますよね。なんとなく寂しい感じもしますが、この絵本の最後にはお母さんのお迎え（抱っこ）が待っています。「バイバイ」と保育園へ行く子ども達ですが、お迎えはとても楽しみです。「ゆうちゃんみたいに、楽しく過ごしたんだろうな」と、毎日しっかりとお迎え（抱っこ）してあげてくださいね!

◆1歳児

絵本『あかまるちゃんとかろまるちゃん』

あかまるちゃんと出会って、まねっこごっこをするときは「〇〇になあれ、へんしん、へーんしん!」の合言葉でいろいろなものに変身してまねっこごっこを楽しんできました。あかまるちゃんになりきった子どもたちがくろまるちゃんと遊んでいるときに怖いお化けやオオカミがやってくると、大風になって「ふー」と吹き飛ばしてやりとりを楽しんできました。大好きになった『あかまるちゃんとかろまるちゃん』の絵本でのごっこあそびから取り入れたものを運動会でも遊んでいこうと思っています。10月もいっぱいあかまるちゃんの世界で遊びこんで行きます。

●2歳児

絵本「さつまのおいも」



さつまいもが主人公の絵本です。子ども達がやってきて、おいものツルをひっぱって、さつまのお芋と綱引きをします。どちらが勝つか「うんととこしょ うんと とこしょ」とあんず組の子ども達も一緒に声を出してこの場面を楽しんでいます。

～さつまのおいもさんと一緒にお芋の畑へ行こう～

『私はさつまのおいもでごわす』とさつまのおいもになって子ども達の前に登場すると「おいもさ～ん おいもさ～ん」となにかが始まるのかワクワクしている子ども達です。

「私の仲間がまだたくさん眠っているので起こして欲しい」と頼まれた子ども達は、さつまのお

いもと一緒にお芋の畑へ向かいました。「おきて〜」「朝だよ〜」と大きな声で起こしても、「うんと、とこしょ」とツルをひっぱても、「グ〜グ〜」といびきをかいてなかなか起きないお芋たちでした。しょうがないのでまた、起こしにこようと、お芋さんと一緒にお散歩して保育園に帰りました。

◆4・5歳児

絵本「くろずみ小太郎旅日記」ごっこの取り組み

アメフラシがやってきた!!



田上小学校で忍術の修行ごっこを終え、保育園に帰ってくると、廊下や部屋に紫色の液体が床に落ちていました。

「あれ、なんかついてる」「なんか紫色のがついているね」「紫いろ」「先生これアメフラシの汁だ!」「きっとアメフラシが来たんだよ」「みんなアメフラシの汁が落ちているけん、踏まんでよ」「きをつけばんばい」「大変だ、みんなにも教えないと」「どんぐりさん、下にはこないほうがいいよ、アメフラシの汁がおちているけん、絶対降りてこないでね」「給食先生にも言わなきゃ」「園長先生にも!」と各部屋に報告をしに行き、みんなに伝えていました。

部屋には手紙が置いてあり、「みんなの大事なものを奪っていく。くろずみ小太郎に合わせたくないからな」と書いてありました。

部屋には手紙が置いてあり、「みんなの大事なものを奪っていく。くろずみ小太郎に合わせたくないからな」と書いてありました。

「この字の色も紫だ。アメフラシが書いたんだ」「大事なもの…あーシールが無い!!」「小太郎シールが全部ない!!」「みんなの忍術表なんにもなくなっちゃてる」「アメフラシが持って行っちゃったんだ」と肩を落とす子どもたち。「これ触らない方がいいよ、アメフラシになるよ」と手紙まで恐れていました。

それから、これからどうしたらいいかの話し合いをしました。「ねえ、みんな手紙をかくのはどう?」「あめふらしさんもう保育園にこないで下さい」「こたろうに頼むのはどう?」「小太郎かいね」「でもアメフラシは悪いやつだいいけん、約束守ってくれんかも」「僕たちも力が足りない」「もっと力をつけないと」「修行をしないと」「でもお昼寝の時とかくるみさんに来たらどうする」「うん紫色のしるをつけていかしたら大変」「やっぱり修行しないと」

「アメフラシにはもう汁を落とさないで下さいって頼まないと」「それからシールを返して下さいったのまなきゃ」「よし決まり!手紙を書こう」こんな風に話しが進み、修行の日々を重ねていった子どもたちです。

小太郎シールを取り戻したよ!!



ある日のお昼寝後、休憩を終え、りんご組さんよりも先に自分たちの部屋に戻った子どもたち。バタバタと足音が聞こえました。そして急いでまっぼっくりの部屋に入りってきた子どもたち。

「先生、シールが シールが戻ってきた!」「アメフラシが部屋に来た

みたい!」「ばらまいてある」「返してくれたよ」と大きな声で報告したのもですから、まだ寝ぼけまなこのりんご組の子どもたちも跳び起き、急いでりんぶさんの部屋に行きました。「やったー!!」と大喜びの子どもたち。そして、ちょっと落ち着いたところに「本当にシールがばらまいてある」「気をつけて、紫色の汁がついてる」「これ破れてる」「ひどい…」「でもアメフラシさん、約束守ってくれたね」「本当はいい奴だったのかな」と思い思いに話していました。「良かった～これで小太郎に会える!」「今日跳び箱が出来たから返してくれたのかな」「うん、だって手紙に、シールを返して下さい。跳び箱と鉄棒とうんていを見て下さい!って書いたもん」「そうそう、だから返してくれたのかな」「戸板も頑張ったもんね」

「うん出来たもん」と自分たちが頑張ってきた事を振り返り、きっと〇〇だから返してくれたんだとじわじわとまた嬉しさがこみ上げてきているようでした。無事アメフラシから小太郎シールを取り戻した子どもたちでした。

くろずみ小太郎にやっと会えた!

見せ合いっこの日には、忍者の修行を始める前に「くろずみ小太郎さん」と呼んでみましたが、何の返答もありません。もう一度呼んでみると、笛の音が…絵本の笛を吹いている場面を想像した子どもたち。

「もしかしてくろずみ小太郎さんかも!」「見に来てくれたんだ」と何か核心した子どもたち。その後の修行はいつも以上に力を出し、張り切っていました。そして忍術の修行を終えようとした所、また笛の音が聞こえました。みんなで集まり「くろずみ小太郎さんかも」「きつとくるんだ」「あっちの山かな」「お山の方に旗が見えたもん!!」と探していると。

「先生後ろ!」と振り返るとくろずみ小太郎が忍者走りで走ってきてくれました。びっくりした子どもたちでしたが、とっても嬉しそうでした。そして最後に告げられた修行もみんな張り切って取り組み、皆が頑張っている事を認めてくれて、忍術の力がでる「忍」と書かれた額当てをもらいました。子どもたちも本当に嬉しそうで、大きな声でお礼を言っていました。子どもたちは、自分も課題を乗り越えながら、また、友達が失敗しても「大丈夫」と励ましたり、「こうしたらいいよ」とアドバイスしながら皆で支え合って乗り越えてきました。

小太郎の為に帰りのバスでも「小太郎のシールが集まったから会いに来てくれたんだ」「もっともっと忍術の修行をしないといけないね」「でもまだ巻物のシールもあるから頑張ろう」「後3日寝たら運動会だから、もっと修行しないと」「今日はゆうやくんがお休みだったから、先生教えないと」「額当てももらったよってしといてね」とお休みのお友だちの事の事を思いやり、運動会の日、くろずみ小太郎に会えることを楽しみにしていた子どもたちでした。

